

教育広報

いるま

第60号
平成26年6月

題字：教育長 村野 志朗
編集：教育広報いるま編集委員会
発行：入間市教育委員会学校教育課
電話04-2964-1111(内4145)

入間市の小中一貫教育スタート

～ 学校力を高め、豊かな人間性を育む ～



平成21年度より本市では「子ども未来室事業」における小中の連携に取り組んできました。平成23～25年度、埼玉県教育委員会から東町小・中学校が「小中一貫教育推進モデル事業」の委嘱を受け、小中一貫教育として推進してきました。その事業の成果が評価され、昨年度より文部科学省より委託を受けて調査研究を行っています。本年度から、すべての中学校区で実施しています。

入間市の小中一貫教育スタート

～ 学校力を高め、豊かな人間性を育む ～

今子どもたちにつけたい力は、21世紀（国際化・情報化・少子高齢化の社会）を心豊かでたくましく生き抜く力にあります。

しかし、7年前までの入間市の学校は、非行問題行動の多発・不登校児童の増加と荒れた学校でありました。この現象は『発達障害の二次障害』ではないかと仮説を立て、立ち上げたのが子ども未来室事業であります。この事業の主な内容は、発達障害の児童を早期に発見し、幼児期から連続して支援・指導していくことです。特に、保育園・幼稚園・小・中・高校の先生方のご協力をいただきました。6年を経過した現在では、非行問題は全国の発生率の4分の1に、不登校は小学校の在籍児童数8,200名に対して0名、中学校でも出現率1.25パーセント（平成26年3月31日現在）と大きな成果を上げることができました。この成果は、全国でもトップレベルであると自負しています。現在、学校は子どもたちの夢や希望を実現する基礎を培う場となっています。

さらに、子どもたちの自立の支援の質を高めるため、平成25年度から『日本一の教育都市入間』という目標をかかげております。具体的には、学校力を一段と向上させ、教育の質を高めることに主眼を置いて、今後5年間取り組みたいと考えています。本年度から文部科学省の研究委託を受け、平成26・27年度市内小中学校全校で小中一貫の教育を実施します。研究の内容としては、1.小中学校の教師の授業交流により、授業の質の向上を図り、学力の向上を目指す。2.小学校児童と中学校生徒との交流を通して、中学校進学時の不安の軽減を図り、中学生の不登校0名を目指す。ということです。また、インクルーシブ教育の視点から、授業のユニバーサルデザインについて研究をしてまいりたいと思っています。

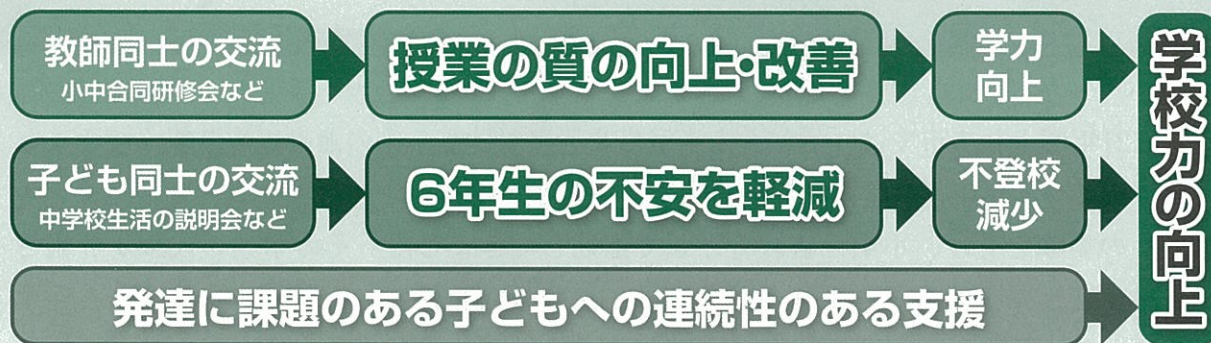
ご理解ご協力をよろしくお願いいたします。



入間市教育委員会教育長 村野 志朗

小中一貫教育のねらい

学校力の向上・教師の資質向上 → 豊かな人間性の育成



小中一貫教育の取組の様子

子ども同士の交流



中学生が小学生に、中学校生活について説明



小学生が中学校に出向き、合同体育授業

授業での交流



中学校の先生が、小学校に出向いて授業

地域での交流



小学校のPTA行事に中学生がお手伝い

行事での交流



一日入学で、中学生が小学生に校歌指導



小学生が中学校に来て、合同茶席体験

入間市の教育



※日本一とは「教育の質」が日本一

【学校教育の標榜するところ】



ふるさと入間を愛し、21世紀をたくましく生き抜く子どもの育成

平成26年度 入間市立幼・小・中学校 校長(園長)先生・教頭先生の紹介

学校名	校長	教頭	学校名	校長(園長)	教頭
豊岡小学校	菅野 勉	田島 浩	東町小学校	村田 勉	保田 研治
黒須小学校	渡邊 直基	原 政幸	高倉小学校	浅見 敏彦	増山 宗隆
扇小学校	関田 恵一	後藤 博	豊岡中学校	広田 和美	松本 武雄
東金子小学校	渡邊 泰典	會田 敏正	金子中学校	早川 等	山本 昭
金子小学校	塩野 育子	高瀬 晃次	武蔵中学校	平岡 健二	伊藤 浩二
宮寺小学校	河野 康雄	小田 誠	藤沢中学校	中田 一平	砂田 一
藤沢小学校	田辺 暁己	篠塚 清治	西武中学校	岩沢 篤男	植竹 誠
藤沢南小学校	池田智恵子	野口 正孝	向原中学校	小川 孝	倉根 勝彦
狭山小学校	小林 光之	大館 信浩	黒須中学校	横山 義武	富井 弘
西武小学校	古谷 進	塩澤 榮一	東金子中学校	森田 幸一	柳沢 弘
藤沢東小学校	鈴木 良一	山崎 紀子	上藤沢中学校	榎本 操	嶺 宗明
藤沢北小学校	齋藤 悟	奥泉 徹	東町中学校	中村 伸一	飯塚 一博
仏子小学校	梶田 修司	萩原 幹夫	野田中学校	菅沼 幸雄	古川正斗志
新久小学校	須田 昌	日下部和史	あずま幼稚園	加藤 孝義	